

2025 年 9 月

日本教材学会 会員 各位

日本教材学会 事務局

第 37 回研究発表大会実行委員委員長 鈴木 正行

日本教材学会 第 37 回研究発表大会 ご案内(3 次案内)

日本教材学会は、「第 37 回研究発表大会」を 2025 (令和 7) 年 9 月 27 日(土)、28 日(日)の 2 日間、香川県高松市の香川大学教育学部(幸町北キャンパス)を会場として、対面で開催いたします。会員の皆様方のご理解・支援をお願いいたします。会員各位の力強いご協力のもと、実りある大会となりますよう、是非とも多数の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

- ◆主催：日本教材学会
- ◆後援：香川県教育委員会 高松市教育委員会 公益社団法人香川県教育会 香川大学教育学部
- ◆日時：2025 年 9 月 27 日(土)～28 日(日)
- ◆開催会場：香川大学教育学部(幸町北キャンパス) 〒760-8522 香川県高松市幸町 1-1
- ◆大会参加費：(事前申し込み) 会員 3,000 円、非会員 4,000 円
(学部生、院生、香川県・岡山県の教員の皆様は 1,000 円)

※受付混雑緩和のため、**9 月 16 日(月)**までにお申し込みいただき、参加費をお振込みください。

※事前受付され、当日ご欠席なされた場合の返金はできませんのでご了承ください。

※当日参加の場合、会員 4,000 円、非会員 4,000 円となります。ご了承ください。

(学部生・院生・香川県・岡山県の教員の皆様の 1,000 円は変わりません。)

※1 日目に情報交換会を開催します(参加費 5,000 円)。参加される方はお申し込みの上、大会参加費と合わせてお振込みをお願いします。

★申し込みはこちらから★

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfS38o7yFbtCDn0RoPEC3pXKwAHGkaYnAGZF21LdiirYYTZnw/viewform?usp=header>

★参加費のお振込口座★

| | |
|----------|---|
| 【ゆうちょから】 | 〔記号番号〕 00130-3-405079 |
| 【他行より】 | ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900) 〇一九店(ゼロイチキュー: 019) 当座 0405079 口座名義: 日本教材学会(ニホンキョウザイガッカイ) |

◆研究発表大会日程・時程(時間は、開始・終了時刻)

2025 年 9 月 27 日(土)

| | | | | | | | | | |
|------|---|-------|---------------|-------|---------------|-------------------|-------|-----------------|-------|
| 9:00 | 9:30 | 11:30 | 11:40 | 12:25 | 13:15 | 13:30 | 17:00 | 17:30 | 19:00 |
| 受付 | 自由研究発表①(各会場) (各発表 25 分) 〔発表 20 分+質疑 5 分〕 ※発表間の入れ替え 5 分 | 休憩 | 理事会 (45 分) | 休憩 | 開会式 (15 分) | シンポジウム (210 分) | 移動 | 情報交換会 (90 分) | |

※ポスター発表は実施しません。

2025 年 9 月 28 日(日)

9:15 9:30 11:30 11:40 12:25 13:15 14:45 (15:15)

| | | | | | | |
|----|---|----|--------------|----|-----------------------------|------------------------|
| 受付 | 自由研究発表②(各会場) (各発表 25 分) 〔発表 20 分+質疑 5 分〕 ※発表間の入れ替え 5 分 | 休憩 | 総会 (45 分) | 休憩 | 研究プロジェクト 各会場 (各 90 分) | (中国・ 四国・九州 支部総会) |
|----|---|----|--------------|----|-----------------------------|------------------------|

※1 日目の情報交換会は香川大学大学会館 2F ベーカリーカフェ空海(そらみ)で開催します。

※2 日目の研究プロジェクトが終わり次第、中国・四国・九州支部総会を行います。

【シンポジウム】 13:30～17:00

趣旨説明 (10分) 基調講演 (50分) シンポジストの発表・質疑 (120分) 休憩 (20分)

テーマ：深い「探究」の学びに導く教材の在り方

趣旨：AIの急速な進歩により、かつては頭を捻りつつ苦勞して作成していたレポート、論文、画像、作品などが、一瞬のうちにできあがってしまう状況になっている。私たちは、探究の過程の中で試行錯誤しながら思考・判断し、成功や失敗を通して学んできた。そこには、学びを通じた人としての成長があった。AIの能力は、情報収集、情報処理、文章構成、計算、画像作成、プログラミングばかりでなく、創造性においても人間の能力を超えつつある。おそらく、人間とAIを分けるものは、なされた行為が人間の尊厳に根ざしているかどうかということになるのではないだろうか。いわゆる探究学習と呼ばれるものが、単に調査して(調べ学習)、作品(レポート、ポスター等)にまとめ、意見や感想を付けて発表する程度のものなら、AIの方が人間よりもはるかにもっともらしいものを作り出し、人を育てるという教育本来の目的から大きく外れたものになる。個別最適な学びも、一歩間違えば、人間のもつ成長の可能性を奪う諸刃の剣になりかねない。そこで、今回のシンポジウムでは、AIが急速に発達する社会の中で、教育における「探究」という行為を問い直し、人としての成長を保證する「探究」に導くための教材の在り方について、国語・数学・音楽の各教科を取り上げ議論する場としたい。

基調講演：小原友行 先生 (広島大学名誉教授)

司会：伊藤裕康 先生 (文教大学教育学部教授)

シンポジスト

国語科：細川太輔 先生 (日本教材学会副会長)

数学科：松島 充 先生 (香川大学教育学部教授)

音楽科：越川徹郎 先生 (東京学芸大学特任講師、作曲家)

【自由研究発表 1日目】

| ＜9/27 第1分科会：算数・数学＞ 司会：矢田 敦之、花園 隼人 | | | |
|-----------------------------------|-------|-------|--|
| 東尾 晃世 | 柳本 朋子 | 算数・数学 | 数量関係をとらえる児童の着眼点—算数カード遊びを通して— |
| 中村 光一 | — | 算数・数学 | 似た問題を用いた数学的探究活動に関する考察 —似た問題を振り返りその関係を生かす— |
| 永山 香織 | — | 算数・数学 | 算数科における数学アプリ GeoGebra を活用した学習環境における児童が「一般と特殊」の関係をつめる視点について |
| 花園 隼人 | — | 算数・数学 | 学習者による数学的問題設定を促す課題の特徴 |

| ＜9/27 第2分科会：技術・情報・特別活動、社会＞ 司会：恒賀 康太郎、伊藤 裕康 | | | |
|--|---------------|------|---|
| 渡津 光司 | 岡崎 靖 大谷 俊行 | 技術 | 中学校技術科における規格材の接合用治具の開発 |
| 井上 嘉名芽 | — | 情報 | AI時代における教育実践での生成AI活用による問題解決力育成に関する一考察 |
| 青木 一起 | — | 特別活動 | バイスタンダー行動に焦点を当てた教育教材の効果と考察 —学校現場における「いじめ」対応プログラムの現状分析と開発の試み— |
| 関根 達郎 | — | 社会 | 地域で作成した教材を生かす実践的な研究 —「マンガ 齋藤実盛と妻沼聖天山」の出前授業を通して— |

| ＜9/27 第3分科会：理科＞ 司会：澤柿 教淳、細矢 智寛 | | | |
|--------------------------------|----------------|----|---|
| 鈴木 宏昭 | — | 理科 | 米国の科学教育における Nature of Science 教材の特質 —次世代科学スタンダードと教材の内容構成に着目して— |
| 中村 泰輔 | — | 理科 | 理科教育における Nature of Scientific Inquiry の理解促進を図る教材 —類型化を通じた検討— |
| 榊 守 | 近藤 量行 宮本 直樹 | 理科 | クリップモータの回転成功率を高める教材の開発 |

| ＜9/27 第4分科会：幼児期教育＞ 司会：妹尾 理子、小野沢 美明子 | | | |
|-------------------------------------|-------|-------|--|
| 戸田 大樹 | — | 幼児期教育 | フィードバック型保育ドキュメンテーション教材の開発 —保育者が基盤とする学習観に着目して— |
| 松田 聖子 | 三島 秀晃 | 幼児期教育 | 保育者養成校における絵本教材の意義と課題 —部分実習を事例として— |
| 井口 眞美 | — | 幼児期教育 | KAPLAの遊びにおける保育者の関わり |
| 三島 秀晃 | 松田 聖子 | 幼児期教育 | 部分実習指導計画における手遊びの選定に関する一考察 |

| ＜9/27 第5分科会：外国語＞ 司会：内垣戸 貴之、遠藤 清将 | | | |
|----------------------------------|--------------------|-----|--|
| 筒井 英一郎 | ブライア・ロジャー 植田 正暢 | 外国語 | 協働による SDGs 教材開発と語学授業実践 —北九州の地域課題を取り入れて— |
| 名瀬 浩司 | 越川 徹郎 | 外国語 | 小学校外国語科で使用する歌唱教材の分析 —英語と音楽的な観点による動機付けの要因分析— |
| 相澤 一美 | — | 外国語 | オンラインによる接辞の体系的指導が習得に及ぼす影響 |

【自由研究発表 2 日目】

| ＜ 9/28 第6分科会：社会＞ 司会：小原 友行、藤井 大亮 | | | |
|---------------------------------|-------|----|---|
| 高橋 範久 | 伊藤 裕康 | 社会 | 附属学校教員と大学教員との連携による教材開発 —「アフリカの光と影」から「四国の中枢管理都市高松市とそのまちづくり」へ— |
| 恒川 徹 | — | 社会 | 「主体的・協働的で深い学び」を創る有田和正の社会科教材学 |
| 伊藤 裕康 | — | 社会 | 単元別実践史研究に基づく教材開発の実際 —低い土地の暮らしを事例に— |

| ＜ 9/28 第7分科会：算数・数学＞ 司会：中村 光一、永山 香織 | | | |
|------------------------------------|----------------|-------|--|
| 矢田 敦之 | 坂井 祐太 | 算数・数学 | 園児および児童を対象とした数理的感性の涵養に関する実証的研究 —「数学マジック」を導入および演示教材として活用した教育的有効性の検討— |
| 樺沢 公一 | — | 算数・数学 | 主体的に学習する態度を養う文字式の論証指導 —「数学的な思考の習慣」の観点からの事例検討— |
| 岩瀬 謙一 | 東尾 晃世 柳本 朋子 | 算数・数学 | 空間図形の図の読み取りに関する一考察—結び目を作る活動を通して— |
| 堤 康嘉 | 松本 宗久 船田 智史 | 算数・数学 | 結び目理論を活用した空間認識教育の実践と教材開発 —青少年のための科学の祭典での3年間の取り組みを通して— |

| ＜ 9/28 第8分科会：国語、教材論。生活・総合＞ 司会：筒井 英一郎、浅井 哲司 | | | |
|--|-------|-------|--|
| 遠藤 清将 | 内山 正登 | 国語 | 教科等横断的に科学メディア・リテラシーを学ぶ ELSI 教材の開発 —再生医療研究に関するプレスリリースの受容と書き換えを巡る学びの実相— |
| 川田 明彦 | — | 教材論 | 学校教育における「学習マンガ」の教材としての可能性 |
| 澤柿 教淳 | — | 生活・総合 | 南極昭和基地周辺でみられる自然事象を再現する簡易教材の開発と検討 |
| 小野沢 美明子 | — | 生活・総合 | 教師と子どもの「共に学ぶ」関係性の再考 —教師の葛藤に着目して— |

| ＜ 9/28 第9分科会：音楽、美術、家庭、道徳＞ 司会：市川 洋子、石川 勝彦 | | | |
|--|---|----|---|
| 石塚 真子 | — | 音楽 | 教員養成における学習材としての「エイサー」について |
| 恒賀 康太郎 | — | 美術 | 図画工作・美術における構造的授業設計の実践とその効果 —教員養成課程における2年間の授業評価の比較分析を通して— |
| 妹尾 理子 | — | 家庭 | 情報をもとに飲み物を選択する力を育む家庭科の授業研究 —算数と家庭科を関連づけて生きる力を高める— |
| 矢作 信行 | — | 道徳 | VRを活用した道徳科等の授業開発 |

【研究プロジェクト】

| 研究代表者 | 共同研究者 | テーマ |
|-------|-----------------------------------|---|
| 石川 勝彦 | 江原 謙介 | 『感情史』の概念装置を援用した新しい道徳授業の開発 ～集約的な道徳感情の生成・制御への視点の拡大を目指して～ |
| 藤井 大亮 | 前田 善仁 増田 有紀 細矢 智寛 木野 正一郎 | 探究型教育・教材の理論的・実践的研究 |
| 山口 直人 | 朝倉 徹 阿部 由夏里 柿田 みずき | デジタル社会における教材の刷新に関する実践的、理論的な基礎研究 |

★香川県の旅もぜひお楽しみください！

【香川県観光協会公式サイト】 <https://www.my-kagawa.jp/>

【高松市観光協会公式サイト】 <https://www.art-takamatsu.com/jp/>



- JR ○JR 高徳線「高松駅」→「昭和町駅」下車徒歩 5 分
- バス ○まちなかループバス「JR 高松駅」→「香川大学教育学部前」下車徒歩 2 分
- 弓弦羽行「JR 高松駅」→「幸町」または「宮脇町」下車徒歩 3 分
- 香西車庫行「JR 高松駅」→「宮脇町」下車徒歩 3 分
- タクシー ○JR 高松駅→香川大学約 10 分約 900 円
- 徒歩 ○JR 高松駅より約 20 分
- ことでん瓦町駅より約 20 分

※JR 岡山駅～高松駅のマリンライナーから JR 高徳線（高松駅から昭和町駅）への乗り継ぎやバスの時間が合わない時は、高松駅から香川大学まで徒歩で来る方がよい場合もあります。